



## 2020年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年7月30日

上場取引所 東

上場会社名 ワタベウェディング株式会社

コード番号 4696 URL <https://www.watabe-wedding.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 花房 伸晃

問合せ先責任者 (役職名) グループ管理本部長 (氏名) 鈴木 眞治 TEL 075-778-4111

四半期報告書提出予定日 2020年8月3日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年12月期第2四半期の連結業績（2020年1月1日～2020年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第2四半期	11,034	—	△5,216	—	△5,200	—	△7,113	—
2019年12月期第2四半期	24,570	8.7	△73	—	117	—	46	—

(注) 包括利益 2020年12月期第2四半期 △7,227百万円 (—%) 2019年12月期第2四半期 △309百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第2四半期	△717.88	—
2019年12月期第2四半期	4.71	—

(注) 2019年6月27日に開催された第55期定時株主総会において第1号議案「定款一部変更の件」が承認されたことを受けまして、2019年12月期より決算日を従来の3月31日から12月31日に変更いたしました。この結果、当第2四半期（2020年1月1日から2020年6月30日まで）と、比較対象となる前第2四半期（2019年4月1日から2019年9月30日まで）の期間が異なるため、2020年12月期第2四半期の対前年同四半期増減率につきましては記載しておりません。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第2四半期	30,300	3,831	12.6
2019年12月期	25,087	11,138	44.4

(参考) 自己資本 2020年12月期第2四半期 3,828百万円 2019年12月期 11,133百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	8.00	8.00
2020年12月期	—	0.00	—	—	—
2020年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2020年12月期の期末配当予想額は未定としております。

### 3. 2020年12月期の連結業績予想（2020年1月1日～2020年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年12月期2Q	9,909,400株	2019年12月期	9,909,400株
② 期末自己株式数	2020年12月期2Q	626株	2019年12月期	626株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年12月期2Q	9,908,774株	2019年12月期2Q	9,908,774株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料等に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は2020年7月30日に当社ホームページに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローに関する説明	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10
3. その他	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

2019年6月27日に開催された第55期定時株主総会において第1号議案「定款一部変更の件」が承認されたことを受けて、2019年12月期より決算日を3月31日から12月31日に変更いたしました。このため、各セグメントにおける比較につきましては、2019年1月から6月までの6ヶ月間を「前年同一期間」として算出した参考数値と比較しております。

当第2四半期連結累計期間における運営状況と経営成績につきましては、「リゾート挙式」におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、当社が取扱う海外ウェディング営業地域の全挙式施設への渡航制限および外出自粛要請により挙式催行が全て開催不能となり、6月に沖縄では一部施設が稼働したものの、当四半期に実行予定の多くの国内外の挙式が延期となりました。販売面におきましては、緊急事態宣言発令期間中は全国の店舗を自粛要請に沿って休業いたしました。来店不要型のWEBサービス「リゾ婚オンラインカウンター」の接客体制を強化したことで、オンラインの利用者数は堅調に推移し、今後の取扱件数の増加が見込まれます。宣言解除後の6月には、仙台・銀座・立川の店舗を移転オープンし、ブランド強化を図ると共に、引き続きオンライン接客を推進し、顧客ニーズに合わせた多様な販売チャネルを展開いたしました。また、6月よりウィズコロナ時代の接客サービスの新基準「安心への5つの約束」を制定し、対応を開始すると共に、リゾート挙式のご成約特典として国内での「前撮り家族フォト」をプレゼントするなど、当社ならではの総合サービスの強みを活かし、利用価値向上に努めました。フォト事業におきましては、外出自粛要請による影響を受けたものの、受注は概ね堅調に推移いたしました。6月には主要都市である、札幌と福岡にフォトスタジオを新規出店し、顧客ニーズに応えるべくサービス網を拡充いたしました。

「ホテル・国内挙式」におきましては、緊急事態宣言発令期間中は、ホテル雅叙園東京は全館休業、メルパルクは各地方自治体の要請に合わせ、施設毎に営業縮小や自粛などの対応をいたしました。宣言解除後の6月からは、館内施設利用を促進すべく、国内需要をターゲットとした営業活動を開始いたしました。

以上の施策を展開すると共に、役員報酬減額をはじめ人件費抑制や賃料減額交渉をはじめとする固定費削減や販売管理費の削減など様々な費用削減対策を広範囲且つ強力に実施いたしました。当第2四半期連結累計期間における業績は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた結果、売上高11,034百万円（前年同一期間比55.5%減）、営業損失5,216百万円（前年同一期間営業利益84百万円）、経常損失5,200百万円（前年同一期間経常利益348百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失7,113百万円（前年同一期間親会社株主に帰属する四半期純損失20百万円）となりました。

(単位：百万円)

	前年同一期間（参考） （自2019年1月1日 至2019年6月30日）	2020年12月期第2四半期 （自2020年1月1日 至2020年6月30日）	増減率 （%）
売上高	24,805	11,034	△55.5
営業利益又は 営業損失（△）	84	△5,216	—
経常利益又は 経常損失（△）	348	△5,200	—
親会社株主に帰属する 四半期純損失（△）	△20	△7,113	—

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。なお、以下の数値は、セグメント間の取引消去後となっております。

① リゾート挙式

新型コロナウイルス感染症拡大による、海外挙式催行中止の影響などを受け、挙式組数が大幅に減少した結果、売上高5,462百万円（前年同一期間比49.0%減）となりました。利益面では、不要不急の投資を抑えつつ、広告宣伝費や人件費を削減したものの、売上高の大幅減少により、セグメント損失は2,052百万円（前年同一期間セグメント損失404百万円）となりました。

② ホテル・国内挙式

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、婚礼・宿泊・宴会利用が大幅に減少した結果、売上高5,572百万円（前年同一期間比60.4%減）となりました。利益面では、不要不急の投資を抑えつつ、広告宣伝費や人件費を削減したものの、売上高の大幅減少により、セグメント損失3,202百万円（前年同一期間セグメント利益470百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ6,438百万円増加し、15,266百万円となりました。これは主に現金及び預金が増加したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,226百万円減少し、15,033百万円となりました。これは主に投資その他の資産のその他の減少によるものであります。この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ5,212百万円増加し、30,300百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ12,628百万円増加し、23,078百万円となりました。これは主に短期借入金が増加した一方で、買掛金及び流動負債のその他が減少したことによるものであります。固定負債は前連結会計年度末に比べ108百万円減少し、3,390百万円となりました。これは主に退職給付に係る負債が減少した一方で、固定負債のその他が増加したことによるものであります。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ12,519百万円増加し、26,468百万円となりました。

純資産残高は、前連結会計年度末に比べ7,307百万円減少し、3,831百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものであります。

## (3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが8,325百万円の支出、投資活動によるキャッシュ・フローが1,111百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが16,304百万円の収入となり、この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、11,399百万円となりました。

なお、前連結会計年度より決算日を3月31日から12月31日に変更しました。これに伴い、当第2四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年6月30日）と前第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日）の対象期間が異なるため、前年同四半期比については記載しておりません。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は8,325百万円となりました。これは、税金等調整前四半期純損失6,219百万円のほか、主に退職給付に係る負債の減少額1,169百万円、仕入債務の減少額1,810百万円、未払金の減少額925百万円等があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は1,111百万円となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出792百万円、無形固定資産の取得による支出238百万円等があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は16,304百万円となりました。これは、短期借入金の純増加額16,600百万円等があったことによるものであります。

## (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年4月30日に公表したとおり、新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見通せないなか、現時点では業績予想の合理的な見積もりが困難であるため、2020年12月期の連結業績予想を「未定」とさせていただきます。

今後、業績予想の合理的な見積もりが可能となった時点で速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,618	11,404
売掛金	1,671	357
商品	207	279
原材料及び貯蔵品	492	433
その他	1,855	2,807
貸倒引当金	△17	△15
流動資産合計	8,828	15,266
固定資産		
有形固定資産		
貸衣裳(純額)	137	123
建物及び構築物(純額)	6,015	5,500
器具備品(純額)	1,134	833
土地	1,675	2,551
その他(純額)	903	797
有形固定資産合計	9,866	9,805
無形固定資産		
のれん	628	499
その他	1,360	1,426
無形固定資産合計	1,989	1,925
投資その他の資産		
差入保証金	2,744	2,827
その他	1,663	479
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	4,403	3,301
固定資産合計	16,259	15,033
資産合計	25,087	30,300

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,002	185
短期借入金	1,600	18,200
前受金	2,963	2,565
賞与引当金	417	266
その他	3,466	1,860
流動負債合計	10,450	23,078
固定負債		
長期借入金	700	551
退職給付に係る負債	1,328	167
資産除去債務	872	901
その他	597	1,769
固定負債合計	3,498	3,390
負債合計	13,948	26,468
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,176	4,176
資本剰余金	4,047	4,047
利益剰余金	3,346	△3,846
自己株式	△0	△0
株主資本合計	11,569	4,377
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26	19
繰延ヘッジ損益	24	11
土地再評価差額金	△681	△681
為替換算調整勘定	184	101
退職給付に係る調整累計額	9	—
その他の包括利益累計額合計	△436	△548
非支配株主持分	5	3
純資産合計	11,138	3,831
負債純資産合計	25,087	30,300

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
売上高	24,570	11,034
売上原価	8,037	3,811
売上総利益	16,532	7,222
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	5,483	4,248
賞与引当金繰入額	609	246
退職給付費用	101	120
賃借料	2,497	2,043
その他	7,912	5,779
販売費及び一般管理費合計	16,605	12,439
営業損失(△)	△73	△5,216
営業外収益		
為替差益	145	—
その他	61	79
営業外収益合計	207	79
営業外費用		
支払利息	6	25
為替差損	—	16
その他	10	22
営業外費用合計	16	64
経常利益又は経常損失(△)	117	△5,200
特別利益		
助成金収入	—	943
退職給付制度移行利益	—	77
その他	1	0
特別利益合計	1	1,021
特別損失		
減損損失	—	548
臨時休業等による損失	—	1,237
その他	53	254
特別損失合計	53	2,040
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	65	△6,219
法人税等	30	896
四半期純利益又は四半期純損失(△)	35	△7,115
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△11	△2
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	46	△7,113



(四半期連結包括利益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	35	△7,115
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△6
繰延ヘッジ損益	△32	△13
為替換算調整勘定	△306	△82
退職給付に係る調整額	△4	△9
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	△0
その他の包括利益合計	△344	△112
四半期包括利益	△309	△7,227
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△297	△7,225
非支配株主に係る四半期包括利益	△11	△2

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	65	△6,219
減価償却費	858	870
のれん償却額	35	35
減損損失	—	548
施設店舗整理損	—	251
賞与引当金の増減額(△は減少)	△84	△180
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	51	△1,169
受取利息及び受取配当金	△5	△4
支払利息	6	25
為替差損益(△は益)	△156	5
売上債権の増減額(△は増加)	15	1,313
未収入金の増減額(△は増加)	41	△858
たな卸資産の増減額(△は増加)	△62	△14
前払費用の増減額(△は増加)	△68	148
仕入債務の増減額(△は減少)	△254	△1,810
未払金の増減額(△は減少)	△466	△925
前受金の増減額(△は減少)	565	△387
その他	115	148
小計	657	△8,223
利息及び配当金の受取額	5	4
利息の支払額	△1	△23
法人税等の支払額	△306	△134
法人税等の還付額	26	50
営業活動によるキャッシュ・フロー	382	△8,325
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,297	△792
有形固定資産の売却による収入	9	—
無形固定資産の取得による支出	△300	△238
差入保証金の差入による支出	△15	△101
差入保証金の回収による収入	12	14
その他	22	6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,567	△1,111
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,000	16,600
長期借入れによる収入	—	51
長期借入金の返済による支出	△200	△200
配当金の支払額	△49	△79
その他	△105	△67
財務活動によるキャッシュ・フロー	645	16,304
現金及び現金同等物に係る換算差額	△115	△81
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△656	6,785
現金及び現金同等物の期首残高	5,067	4,614
決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△108	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,302	11,399

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(退職給付制度の変更)

当社及び一部の子会社は、2020年1月1日付で確定給付企業年金制度を確定拠出企業年金制度へ移行いたしました。移行に伴う会計処理については、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号 平成28年12月16日)及び「退職給付制度間の移行等の会計処理に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第2号 平成19年2月7日)を適用しております。

これに伴い、当第2四半期連結累計期間において、「退職給付制度移行利益」として特別利益に77百万円を計上しております。

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

当社は、新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等について不確実性の高い事象であると考え、本件が当社グループの業績に与える影響については2021年秋口まで続くものとの仮定を置き、会計上の見積りを行っております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	10,908	13,662	24,570	—	24,570
セグメント間の内部売上 高又は振替高	4,344	130	4,474	△4,474	—
計	15,252	13,792	29,044	△4,474	24,570
セグメント利益又は損失 (△)	△264	144	△119	46	△73

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額46百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	5,462	5,572	11,034	—	11,034
セグメント間の内部売上 高又は振替高	2,296	48	2,344	△2,344	—
計	7,758	5,620	13,378	△2,344	11,034
セグメント損失(△)	△2,052	△3,202	△5,255	38	△5,216

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額38百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「リゾート挙式」セグメントにおいて182百万円、「ホテル・国内挙式」セグメントにおいて366百万円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「リゾート挙式」セグメントにおいてのれんの減損処理を行っており、93百万円を減損損失として計上しております。

なお、上記(固定資産に係る重要な減損損失)の中に当該のれんの減損損失も含めて記載していません。

### 3. その他

当社グループは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による売上の大幅な減少により、当第2四半期連結累計期間において、営業損失5,216百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失7,113百万円を計上したことから、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

その対応のひとつとして、当社グループは、本年4月に、既存の当座貸越契約取引とは別枠で総額13,000百万円の資金調達を行っており、当面の運転資金は確保できていると判断しております。また、今後も取引金融機関から引き続き支援を得られる見通しであり、資金面で問題がないことから、継続企業的前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しており、継続企業的前提に関する注記を記載しておりません。